

初期臨床研修医が単独で行って良いこと

豊川市民病院における診療行為の内、研修医が指導医の同席なしに単独で行って良い処置と処方内容の基準を示す。実際の運用に当たっては以下のような点を考慮したうえで行うこと。

- ・緊急時を除いてインフォームドコンセントを実施したうえで診察に当たる。
- ・各診療科特有の医療行為に関しては当該診療科の責任者・指導医の指示のもと基準を定めること。
- ・指導医は個々の研修医の技量を考慮して指導し、研修医が実施したことについては指導医が責任を負う。
- ・個々の手技においては単独で行って良いものでも初回や困難な例については上級医・指導医の指示を仰ぐこと。

* 研修医単独診療行為基準

		単独可能	単独不可
診察	診察	全身の視診、打診、触診、簡単な器具（聴診器、打鍵器、血圧計）を用いる全身の診察、直腸診、耳鏡・鼻鏡・検眼鏡による診察	内診 （乳房・泌尿・生殖器の診察は看護師、指導医等の立会いの元に行う）
検査	生理学的検査	心電図、聴力・平衡・味覚・嗅覚・知覚・視野・視力検査、眼球に直接触れる検査	脳波、呼吸機能、筋電図、神経伝導速度
	内視鏡検査		喉頭鏡、直腸鏡、肛門鏡、食道鏡、胃内視鏡、大腸内視鏡、気管支鏡、膀胱鏡
	画像検査 生理学的検査	超音波、単純 X 線撮影、CT（造影検査含）、MRI（造影検査含）	血管造影、核医学検査、消化管造影、気管支造影、脊髄造影
	血管穿刺と採血	末梢静脈穿刺と静脈ライン留置、動脈穿刺、小児の採血、点滴	中心静脈穿刺（鎖骨下、内頸、大腿）、動脈ライン留置、小児の動脈穿刺
	穿刺	皮下の嚢胞・膿瘍穿刺	深部の嚢胞・膿瘍穿刺、関節・胸腔・腹腔・膀胱穿刺、腰部硬膜外穿刺、腰部くも膜下穿刺、針生検

		単独可能	単独不可
検査	産婦人科		膣内容採取、コルポスコピー、子宮内操作
	小児科	インフルエンザ（全年齢）、A 群溶連菌（全年齢）、アデノウイルス（全年齢）、RS ウイルス（0 歳または入院症例）ヒトメタニューモウイルス（0～5 歳）、ロタウイルス（全年齢）、ノロウイルス（0～2 歳）、	RS ウイルス（1 歳以上や入院が決まっている症例）、ヒトメタニューモウイルス（6 歳以上の症例）、ノロウイルス（3 歳以上の症例）血液培養、カテーテル尿採取（小児科医の指示があれば可）
	救急外来	インフルエンザ（全年齢） コロナウイルス（時間外・ER では必要時のみ）	
	その他	アレルギー検査、改訂版長谷川式簡易知能評価スケール、MMSE	発達テストの解釈、知能テストの解釈、心理テストの解釈
治療	処置	皮膚消毒、包帯交換、創傷処置、外用薬貼付・塗布、気管内吸引、ネブライザー、導尿、尿道カテーテル挿入及び抜去、浣腸、胃管挿入、気管カニューレ交換、肩・肘・指の骨折、神経障害、血行障害を伴わない脱臼整復（2 年次のみ単独可）	ギプス巻き、ギプスカット、胃管挿入（経管栄養目的のもの）、気管切開後初回のカニューレ交換、下肢・股関節の脱臼整復、気管挿管
	注射	皮内・皮下・筋肉・末梢静脈注射、輸血、中心静脈注射	関節内注射
	麻酔	局所浸潤麻酔	脊髄麻酔、硬膜外麻酔
	外科的処置	抜糸、皮膚止血、皮下膿瘍切開排膿、皮膚縫合	深部の止血、深部膿瘍切開排膿、深部の縫合、ドレーン抜去
	処方	右記以外の内服薬・注射薬	向精神薬・抗悪性腫瘍薬・麻薬・カリウム製剤・インスリン製剤・麻酔薬・筋弛緩薬
	その他	血糖値自己測定指導、病状説明	病理解剖、病理診断報告、診断書・証明書作成
診療	その他	検死（2 年次または検死の経験が終えている 1 年次のみ単独可）	死亡診断書、死体検案書（指導医のもとでの記入は可。指導医はカルテにチェックした旨を記録）

平成 31 年 4 月 1 日
修正令和 3 年 12 月 1 日
修正令和 4 年 3 月 1 日
修正令和 5 年 2 月 1 日
修正令和 6 年 2 月 1 日
修正令和 7 年 3 月 1 日
キャリア支援センター